

1. 校務DX計画

	現状分析・課題	解決策・想定スケジュール				
		令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
学校における業務のデジタル化	校内の情報共有に関しては、学校によって取組状況や実態に差が出ている。 また、保護者との連携ツールは各校に任されている。	活用方法の情報発信				
		学校と保護者をつなぐシステム導入や環境整備の検討		運用や改善、または引き続きの検討		
学校設置者における業務のデジタル化	教育に関わる公文書のデジタル化に関する規定について、洗い出しと変更等を検討していく必要がある。	クラウド対応セキュリティポリシーの検討・修正		運用や改善、または引き続きの検討		
		校務事務の規定の検討	教育に関わる公文書のデジタル化に関する規定の策定	運用や改善または引き続きの検討		
次世代の校務デジタル化に向けた環境整備	ネットワーク統合と汎用のクラウドツールの活用を前提とした、パブリッククラウド上で運用できる次世代型校務支援システムについて今後検討する必要がある。	次世代校務支援システム導検討・設計 課題の洗い出しと修正・変更の検討			新システム導入・運用	
生成AIの校務での活用	一部の教職員（半分未満）が生成AIを校務で活用している学校の割合は、少ない。	生成AIについての事例収集、活用方法検討 情報発信		引き続き、生成AIについての事例収集、活用方法検討 活用方法の情報発信 ※パイロット校事業の実証結果等を含む		
クラウド環境を活用した校務DXの推進	教職員が校務系の情報をクラウドベースで使用できる環境を整えていない。	次期ネットワークの在り方検討・設計			ネットワークの最適化・運用	
Fax・押印の原則廃止、ペーパーレス化、不必要な手入力作業の一扫	Fax・押印については、ほとんど進んでいない。	解決策の検討 規定等の見直し 順次運用		順次運用改善・学校への周知・徹底		

2. 期待される効果

校務で利用する各種システムの活用により校務の効率化が進み、教育データを活用した児童生徒への指導や支援が充実する。  
 ①統合型校務支援システムなど、校務で利用する各種システムの活用により、校務が効率化され、教員の校務事務が最適化する。  
 ②教員は、校務データや学習データ等の効率的・効果的な活用により、個々の児童生徒にきめ細かな指導や支援ができる。